

第 67 号

大阪市史跡
龍溪禅師墓所

靈亀山 九島院

発行所

〒550-0022 大阪市西区本田3丁目4番18号

TEL 06 (6583) 2725 FAX 06 (6583) 0908

発行者

第廿五代住職

奥 田 啓 知 (智證)

龍 灯

本年は、
黄檗宗大本山萬福寺開創三五〇年記念の年です。

ステイプ・ジョブズ氏と禅

『靦面の今』を大切に生きよう

10月5日、米アップル社の創業者で8月まで最高経営責任者(CEO)を務めていたステイプ・ジョブズ会長が死去されました。享年56歳。ジョブズ氏は、パソコンの生みの親の一人として、『iPod(アイパッド)』や『iPhone(アイフォン)』などをヒットさせ、同社を時価総額で世界最大の企業に押し上げたカリスマ経営者でした。

ジョブズ氏は若い頃インドを旅して仏教に触れ、一九七〇年代にアップル本社近くのカリフォルニア州ロスアルトスにある禅センター『ハイク禅堂』に通って、その創設者である曹洞宗の乙川弘文和尚と交流を深め、乙川和尚はジョブズ氏の結婚式を仏式で執り行い、氏がアップル社を解任されて設立した『ネクスト』社の宗教指導者にも任命され、二人の交流は家族ぐるみの付き合いでした。ジョブズ氏がスタンフォード大学で行った伝説の講演をはじめ、彼の生き方には禅の影響が強く見られます。講演でジョブズ氏は次のように言っています。

過去33年間、私は毎朝鏡の中の自分に向かって『もし今日が自分の人生最後の日だったなら、今日やろうとしていることをやりたいと思うだろうか』と問い掛ける。そして、答えが『NO(ノー)』の日が続いたら、何かを変えねばいけないと思う。禅の世界では「**即今、只今、此処**」を大事にします。また、「**靦面の今**」を大事に生きようと教えます。

靦面とは「**まのあたり**」「**目前**」の意味ですが、「**天罰デキメン**」「**効果デキメン**」など効果が瞬時に現あらわれることにも使われます。私たちは「靦面の今」を大切に生きていかねばなりません。過去はもはや過ぎ去ったものであり、再び帰ってくることはありません。未来はいずれやってきますが、たとえ来たとしても来た時点で「靦面の今」になってしまします。

とすれば、私たちにあるのは「**即今、只今、此処**」だけなのです。「**いま、ここ**」しか、私たちの生きるところはないのです。過ぎ去った過去を悔しがり、まだ来てもない

未来を心配しても
何にもな
りません。

評論家の扇谷正造氏も好きな言葉として、「神は万人に等しく1日24時間という時間を与え給うた。貧しき者にも、富める者にもである。」昨日の24時間は、すでに過ぎ去って手にする事ができない。明日の24時間はまだ手にできない。いま君の手にしている今日の24時間をどう効果的に使うかその収支決算書が君の人生である」と。

黄檗山禅堂では、五更(午前4時)巡照板を打ち鳴らし、墨書された言葉を唱え、雲水(修行者)を起こして廻ります。

謹白大衆 生死事大 無常迅速
各宜醒覺 慎勿放逸
(謹んで大衆に曰す 生死は大切な事であり、時は迅速に過ぎ去る 各自宜しく目覚め精進しなさい)



波濤の夢

(龍溪禪師一代記) その八

龍溪と隠元禪師④

明暦三年(一六五七)正月、隠元は普門寺で結制をした後、古黄檗帰郷すると告げられた。結制とは安居のことで、禪宗では4月16日から7月15日までの夏安居と10月16日(翌年1月15日)までの冬安居とし、それぞれ90日(九旬)の間禅院に禁足常在して、坐禅を中心とする参禅学道に励む事である。

1月17日冬安居の解制をうけ、龍溪は禿翁と連名で、寺社奉行宛の隠元帰唐許可願いを記し、牧野織部正成常に然るべく配慮を乞う書状を笠印に託している。

成常は、旗本牧野伊予守成里の四男で、作事奉行として同年1月18日に起こった明暦の大火、俗にいう振袖火事で炎上焼失した江戸城本丸造営を久世大和守広之の惣督のもと完成させた人物で、先の隠元の普門寺入寺では、長崎兩奉行及び大坂町奉行曾我丹波守古佑、松平隼人正重次に入寺許可決定の書簡を送っている。またその翌年には普門寺において、父親の44回忌を隠元に依頼するなど、隠元への帰依も深く、隠元滞留という龍溪の念願成就に強力な援助の役割を果たしている。

1月18日、江戸本郷丸山町の本妙寺で施餓鬼に焼いた振袖が空中に舞い上がり、折からの北西の強風に煽られて広がり、翌々日の鎮火までに江戸城本丸をはじめ市外の六割が灰塵に帰し、犠牲者は十万人以上を数えた。

隠元はこの報せに遭い、帰国を一旦取りやめ、被災者を弔うために七日間の『千仏道場』を開き大追弔法要を修した。

千仏道場とは、過去・現在・未来の各千仏、合わせて三千仏の仏名を唱えて礼拝供養する法会である。

龍溪は、なんとしても隠元を引留めようと、同年二月と四月の二回、江戸の下つて幕府当局の間に奔走し、隠元滞留工作をする。

2月21日の参府では、まず成常の屋敷を訪ねて隠元滞留について相談し、翌日老中酒井讃岐守忠勝邸に赴き、晩には久世大和守広之の屋敷で隠元滞留の処遇について相談した。23日には、未明より老中方を廻り懇ろに挨拶を行い、朝には松平伊豆守信綱邸へ、朝食の接待を受け松平備前守正信・松平出雲守勝隆同席で隠元の噂など談笑し、好意的な感觸を受けた。

次いで永井日向守直清邸に赴いている。24日には寺社奉行松平勝隆邸に齋の約束があり、参上し、懇ろな指図があった。晩八つ過ぎには、この年九月には老中となる稲葉美濃守正則邸へ赴く、また熱心な黄檗帰依者となる旗本近藤登之助貞用からは、昨年没した息女の法事も隠元に取り次ぐように依頼された。江戸での常宿は番町の旗本掛斐五左衛門政之邸の屋敷であった。

これらのことは、2月15日付で禿翁ら宛の近藤貞用の飛脚により届けられた書状による。

4月に入つて、再び隠元の命で帰国許可を得るように龍溪は下向した。しかし、龍溪の願いはあくまで隠元を日本に滞留させる事であり、なおも隠元滞留を幕閣に働きかけた。紫衣を受ける希望については、老中酒井雅楽頭忠清らの賛成を得られなかったが、7月9日付けで普門寺に毎月百人扶持(十五石)を給与し、普門寺に留まり法を弘めるようとの上意を受け、8月に帰寺した隠元はやむを得ず留まることとした。

これより先の2月6日に即非如一(1616-1676)が若一・炤元(生没年不詳)らを伴つて長崎に到着し崇福寺に入つた。

その時、隠元の師で径山の費隠通容の隠元を召還する手紙を若一は携えてきた。その手紙には「吾が弟子の隠元は、法を広めてすでに三年がたち、とても盛んであると聞いている。(略)わが国の寺院の状態は実に惨めなものであるので、急いで帰国し宗風をたてなおし、祖師の慧命をついでくれれば私(費隠)も心配事がなくなり安心できるのだが……」

これを見た長崎奉行は隠元が帰国の情を強く起すのではと考え、隠し持ち、隠元が帰国を延期したと聞いた十月になつてはじめて隠元のもとに送った。

この手紙を読んだ隠元は、この夏帰国しようと思つたが、大老土井大炊頭利勝や寺主龍溪などから再三懇留され帰国を延期せざるを得なかったことを述べ、「来年の夏か秋には帰国して、費隠のもとへ赴きたい」という返事を送り、本師の心を慰めた。

翌万治元年(1660)6月、古黄檗の住持慧門如沛(1615-1664)や信者たちも、使者に手紙を託して隠元の帰国を願った。

龍溪は、再び江戸へ下り、隠元滞留について奔走した。その結果、幕府側では、とにかく一度隠元を江戸に呼びよせて謁見してみようということとなり、龍溪は7月普門寺に戻り、隠元に江戸行化を請うた。(つづく)



隠元禪師

当院は、阪神なんば線で、なんばから7分です。

ペット供養塚

犬や猫を飼う者にとって、ペットは家族同様の存在です。多くの思いを残し心の支えとなったペットたちの供養塚です。この供養塚は、墓壇下のカロートに直接納骨し土に還す合同供養塚です。

お檀家さん限定です。ご先祖のお墓参りに併せて家族の一員であったペットたちにも手を合わせ偲んであげてください。詳細は、お寺まで。



萬福寺開創350周年記念 『隠元禅師と 黄檗文化の魅力展』

2012年1/19(木)～30(月)
大阪高島屋7階グランドホール
入場料＝一般800円
前売りチケットもあります
詳細は、お寺まで



第十七回 修養会報告



檀信徒の皆さまへ

開催日 十一月五日(土)
天気 曇りのち雨
参加者二十八名

大念佛寺拝塔、平野郷散策、
がんこ平野郷屋敷でゆつくり昼
食。十五時には解散。良いお天
気ではありましたが、の
んびりとした小旅行を楽しめま
した。来年以降は未定ですが、
皆様のご参加をお待ちしていま
す。(副住職)

行事報告

8/19 水灯会(お施餓鬼法要)
参加者三十名

8/22 地蔵盆子ども会
参加者三十名

8/23 大亀地蔵尊 地蔵盆回向
参加者十名

10/1 写経会
参加者八名

10/2 お寺deヨガ
参加者四十名



※大本山萬福寺開創三百五十
年記念授戒会並びに松隠堂
落成慶讃法要 厳修

10月22日～23日に延期されてい
た授戒会、落成慶讃法要が厳修
されました。住職、副住職とも
にお手伝いの為、本山に上りま

行事予定

12/31 坐禅と除夜の鐘
毎年の恒例行事です。参加自由
です。どうぞ、ご参加されまし
て一年の反省と共に新年を鐘を
打って迎えましょう。

2/11 写経と精進料理の夕べ
主催…大阪市仏教青年会
四天王寺客殿を利用しての写
経会です。参加費三千元。

3/23 山門会(春のお彼岸法要)

4月 花まつりヨガ(予定)
詳細は、次号にて。

4/8 花まつり甘茶接待(西区仏教会
九条駅前での花まつり甘茶の振
る舞いです。

平成24年 年忌早見表

年 忌 早 見 表			
年忌	寂年	年忌	寂年
1周忌	平成23年	17回忌	平成8年
3回忌	平成22年	25回忌	昭和63年
7回忌	平成18年	33回忌	昭和55年
13回忌	平成12年	50回忌	昭和38年

墓地管理費のご納付をお願いします。墓参りの折、郵便振込みでも結構です。

● さようなら『龍・RYO』

「この本を作っている間、何度も悲しくなり涙がとまりませんでした。きっと、涙なしではみれないけど、あんなことあったな！こんなことしてたな！って思い出話をしながら、笑えるきっかけになればと思います。リョウは、本当に幸せな子です。羨ましいくらい！」

7月3日息子家族と娘たちが、小生と妻の為に還暦祝いの宴をもうけてくれました。妻も私も卯年の同い年で、恒例の赤い頭巾と赤いちゃんちゃんこのいでたちで記念写真を撮りました。その席で、広告デザイナーをしている次女が「龍・RYO」という題のフォトブックをプレゼントしてくれました。そのあとがきが、上の文章です。

迂闊でした。昨年10月14日に亡くなった引退犬ブーマの病気に掛かりきりで、愛犬の龍の異変に気づけなかったのです。1月19日早朝、龍が突然倒れました。診察時間を待ちかねて、運び込んだ動物病院で、脾臓の腫瘍から大量に出血し手の施しようがないとの事で、自宅で看取る事にしました。幸いにも出血がおさまリ、翌々日に以前にも龍を助けてくれた阿倍野の岸上動物病院を思い出して連れて行ったところ、その日に緊急手術を受け脾臓を摘出し危機はひとまず脱しました。

1月31日午後1時45分病状急変。診察では、脾臓の癌が心臓に転移し血液を送り出す力が弱まり貧血状態だそうで強心剤を処方してもらいました。その日から、酸素導入機の助けを借り龍のターミナルケアが始まりました。血液に酸素がたらなくなると舌が白くなり貧血で倒れる、厄介な事に龍は外でしか排便ができません。龍の排便と食欲に一喜一憂する日々も長くは続きませんでした。3月8日午後2時35分、龍は小生の帰宅を待ってくれ、家内と二人が見守るなか、息を引き取りました。

今もその写真集を見ながら床に就くの
が日課となっています。



お知らせ

◎のほり奉納の募集

1 旗 金 2 千 円

『南無観世音菩薩のほり』を入れ替えます。一年間境内に掲げます。昨年同様、お施主さんを募集いたします。為書きと施主名を墨書します。

ご希望の方は、寺務所まで、お声をかけてください。

奉納便り

○金五萬円御寄進（平成廿三年九月二十九日）

中瀬古秀次郎様より。ペット合祀塚の建立にあたり、金五萬円が寄進されました。誠に有難うございました。

編集後記

▼日本人として四年ぶりに新大関となった琴奨菊の口上は「万理一空」でした。

▼剣豪宮本武蔵の「五輪書」にある言葉で、「すべての理（ことわり）は一つの空（くう）に帰す」とのことと、常に冷静な気持ちで事にあたる状態にあるべきだと指南したものです。

▼小生、9月に突発性難聴で大手前病院に9日間入院、ステロイド剤の点滴治療を受けました。歌舞伎の中村勘三郎さんも同じ病気で長らく入院されていました。治療開始10日が限度で、一ヶ月を超えると耳が完全に聞こえなくなる怖い病気です。

▼難聴の原因は不明な場合が多く、過労やス

トレス、風邪などがきっかけになるのだそうです。

▼一年のうちに前坊守を亡くし、引退犬ブーマ、さらに愛犬リョウまでもが死に、受けた強度のストレスが原因なのかもしれません。

▼左耳の聴力はほぼ回復しましたが、耳鳴りが残ってしまいました。聴力を失うよりまだと諦めています。

▼還暦を越えると、心身ともに徐々に衰えてきます。「万理一空」の境地で日々暮らしていきたいものです。